



うえの事務所通信 VOL.45 R7.10.28

秋も深まり、街を歩くと金木犀の香りが漂う季節になりました。10月も下旬に入り、朝晩の冷え込みが一段と厳しくなっています。寒暖差で体調を崩されないようご自愛ください。



事務員 H・A

外国人労働者との共生が企業を救う — 経営者に求められる新たな労務管理



【日本人ファーストへの傾斜】

新高市政権の方針や、昨今の政治的な動向を見ていると、外国籍の方を排斥するような「日本人ファースト」に傾斜する動きが強まっていると感じます。

弁護士 上野俊夫

私の住む館林市でも、時価 250 万円のプラドがブラジル国籍の方に盗まれ、この被疑者には約 50 件で総額 2 億 3,000 万円の余罪があると報道されています。また、私は以前、保険会社様の交通事故の事案を担当していた時期があり、その折には加害者の外国籍の方が無保険で適正な賠償もしないという事案をいくつも経験し、忸怩たる思いをしました。こういった具体的な経験からも、国や国民が日本人ファーストに傾斜する気持ちは、私自身もよく理解できます。

【「今の日本は選ばれていない」という現実】

しかし先月、サーフトリップ先（インドネシア）で外国人入国コーディネーターに携わる方（監理団体の理事）と出会った際、衝撃的な話を聞きました。

「今の日本は、外国人を排斥するような立場ではない。むしろ日本では稼げないため、優秀な外国人は中国や韓国にどんどん流れている。日本人はそういった実態を把握しておらず、今でも上から目線でおかしい」

これは私にとってまさに目から鱗でした。感情論とは別に、日本が国際的な人材獲得競争で完全に劣後しているという厳しい現実があるのです。

【避けられない共生と経営の未来】

人口減少が続く日本では、外国籍の方に来ていただかなければ産業が成り立たないのは明らかです。私の顧問先様でも、外国人労働者なしには事業継続が困難な状況が徐々に増えてきました。この方向に舵を切らなければ、将来的な会社の展望は開けないでしょう。もちろん弊所もそうです。

群馬県館林市にある私の自宅近くにはモスクがあり、最寄りのコンビニの従業員の大半が外国の方です。彼らは騒音を出すこともなく、仕事ぶりも有能であると感じます。

彼らを「共に働く大切な仲間」として迎え入れないと、日本にも日本の会社にも未来はありません。

そのためには、差別や不当な扱いが許されないのはもちろんのこと、トラブルを未然に防ぐための適正な給与体系、労働条件等「適切な労務管理」が、これまで以上に重要になります。

不信感ももっともですが、それを乗り越え外国人との共生を図ることは経営者の重要な責務です。そして我々士業は、その共生の土台作りをサポートすることが必須だと考えております。

[裏面につづく→](#)



先日インドネシアへサーフトリップに行った際の写真です。
一番右が上野です。

・・・ひとりごと・・・

10月18日、19日に館林市で開催された「麺-1祭り」に行ってきました。

私が行った2日目はあまり天気が良くなかったのですが、会場は多くの人でにぎわっていました。今年は食券制になっていて、事前に購入した食券と商品を引き換えるため、行列の進みが早くスムーズでした。

今回は花山うどんさんの銀座店限定メニュー『鬼ボナーラ』をいただきました。

幅広の麺「鬼ひもかわ」を使った一品で、濃厚なチーズソースとコシのあるうどんの組み合わせが絶品でした！さすが全国に名を知られる花山うどんさんと感心しました。

地元館林で人気の味を楽しめる貴重な機会となりました。



事務員 N・K

